

令和6年度 中央区立銀座中学校 外部評価報告書

評価委員：堀内 一男（委員長） 倉澤 豊明（副委員長） 中村 圭一（委員） 三浦 紀夫（委員） 竹田 裕子（委員）

報告書作成者：倉澤 豊明

評価時期：令和7年3月

## 1 重点目標の評価

### 【重点目標1について】

教員・生徒・保護者（以下3者）に対するアンケートにおいて肯定的評価がすべての評価指標で80%以上となっている。このことから「相手の話をよく聞きよく考え、意見や考えを相手に伝える表現力をもつ」という重点目標1はおおむね達成できていると評価できる。

今後はタブレット端末を生徒が授業内だけでなく家庭学習においても活用する場面を増やす工夫を進めていく。

### 【重点目標2について】

3者アンケートにおいて肯定的な評価がすべての評価指標で80%以上となっている。このことから「豊かな人間性、多様性を受容する共生の心をもつ」という重点目標2はおおむね達成できていると評価できる。

今後もいじめの未然防止、早期解決のため教員による生徒への声かけや教師に相談できる雰囲気づくりを推進する。

道徳科の授業の充実を図り、より深く議論する道徳授業を推進するため、研修を行うとともに、道徳授業地区公開講座等で積極的に情報発信を行う。

### 【重点目標3について】

3者アンケートにおいて肯定的な評価がすべての評価指標で80%以上となっている。このことから「強い意志と身体、基本的生活習慣や社会性をもつ」という重点目標2はおおむね達成できていると評価できる。

今後も各行事を「身に付けたことのアウトプット」と位置付け、意図的・計画的に行事を進め、生徒に充実感や達成感を養う。

今後も3年間を見通した系統的な進路学習を進め、本人の適性を知るとともに、個に応じた指導医を行っていく。

## 2 家庭や地域との連携について

保護者（家庭）と連携し、職業講話を実施した。身近な大人の進路について知ること、生徒は自分の将来について、より具体的に考えるきっかけとすることができた。

地域と連携とした行事として、歌舞伎教室やがん教育を実施している。さらに今年度は金融教育を加えた。

今後も地域の人材を活用するだけでなく、地域の特色を生かした、体験を中心とした教育活動を推進することで、より深く自己を見つめる教育活動へと深化させていく。